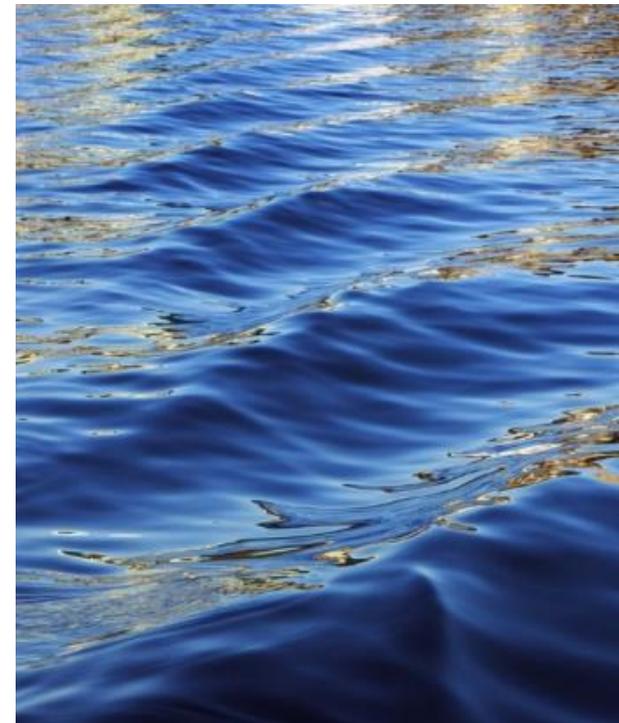




「吉野共生プロジェクトの取り組みとならコープエネルギー政策」



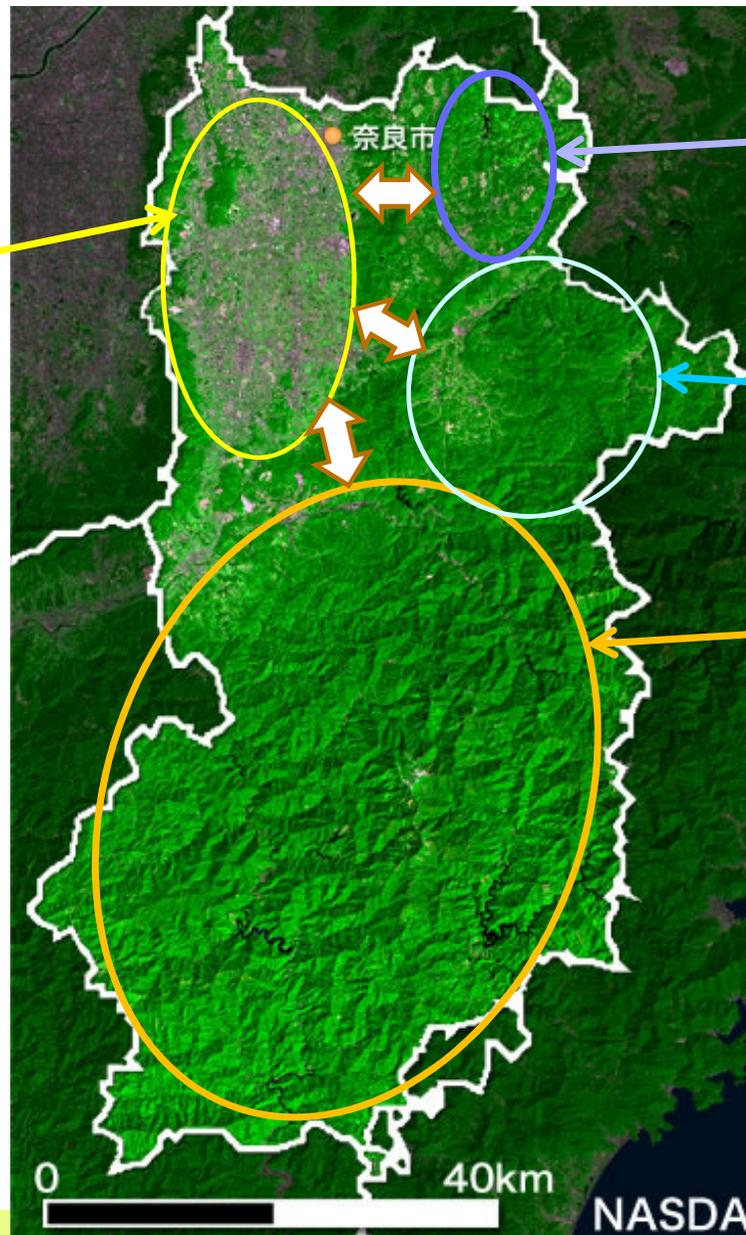
2015年2月14日
市民生活協同組合ならコープ 理事長 森 宏之

吉野共生プロジェクト

“たすけあい ささえあい わかちあい”

奈良県は、人口の集中する北部の奈良盆地、盆地を取り囲む生駒、金剛山地、大和高原、宇陀山地、そして南部の吉野地方に区分されます。昔から奈良盆地を「国中（くんなか）」、山間部を「山中（さんちゅう）」とよび、人や物資の往来を通じて共存共栄してきました。その「山中」の人口の高齢化、過疎化が急速にすすみ、様々な地域問題をかかえています。いま、わたしたちならコープは、北部の人口集中地域の奈良盆地と南部・東部の「山中」との「人、もの、サービス」の交流を深め、「山中」の暮らしと経済を元気にする活動、そして、多数の組合員から「たすけあい・ささえあい・わかちあい」の共同社会づくりを実現するために「吉野共生プロジェクト」を立ち上げました。

奈良盆地
(国中：くんなか)



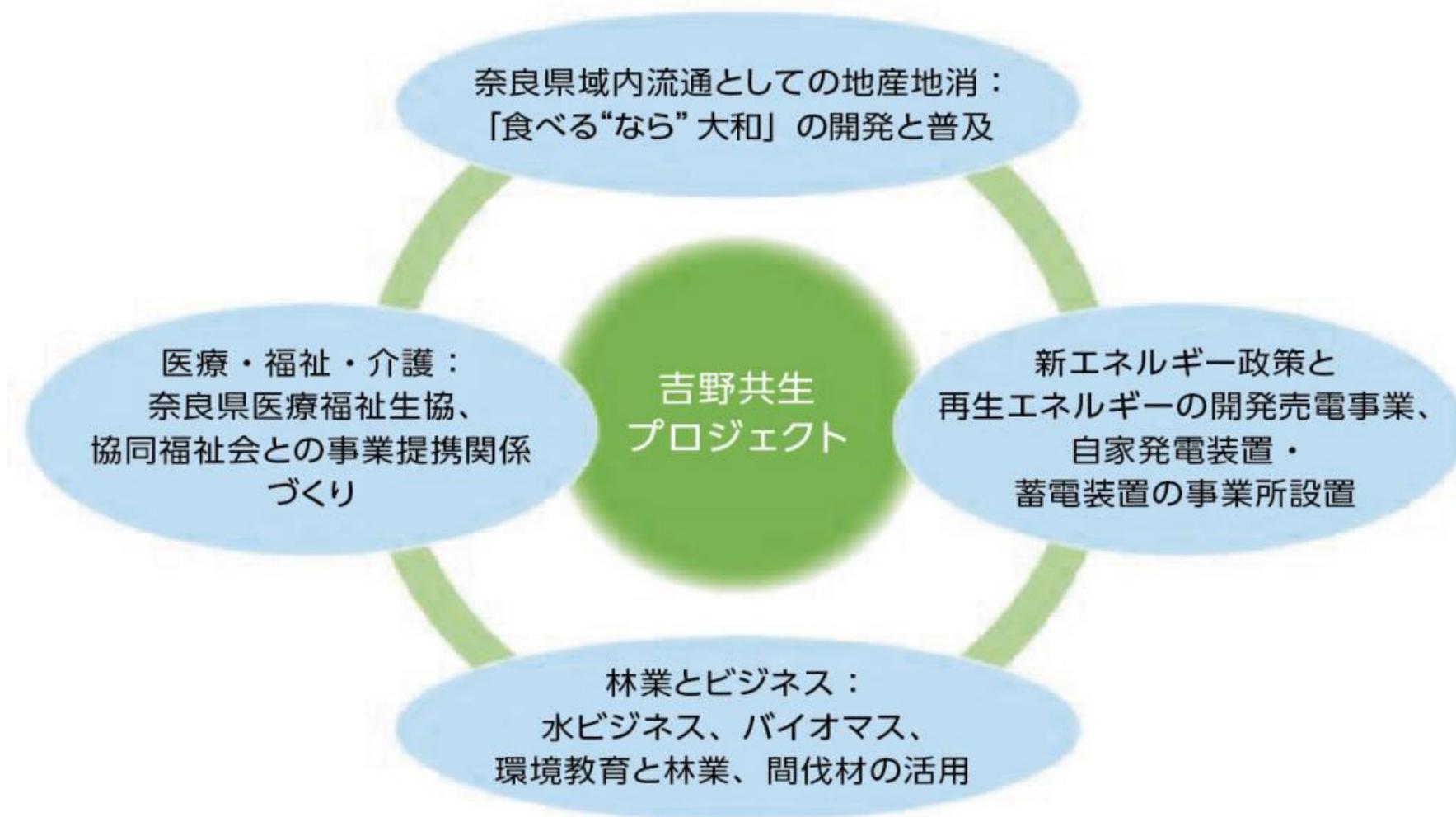
大和高原

宇陀山地

吉野山地

山中：さんちゅう

吉野共生プロジェクト





吉野共生プロジェクト 4つの柱

1

吉野の森と水を
守ります

2

吉野の自然、
文化と歴史を
継承します

3

吉野の産業振興に
寄与します

4

吉野地域の組合員や
住民とのふれあいの
場を増やします

吉野共生プロジェクトの活動

活動内容

吉野の森と水を守る募金

募金
活動



ならコープで販売されている「ひのひかり」を通じた「吉野の森と水を守るための募金活動」は、誰でも利用することで森林の保全と再生に参加できる取り組みです。ひのひかり1kgにつき1円が募金されます。これまでこの募金により、金峯山寺（きんぷせんじ）、大淀町平畑公園（おおよどちょうひらはたこうえん）への植樹や森の維持管理に使用されています。

吉野共生プロジェクトの活動

守る
活動

活動内容

森林、吉野川を守る取り組み



絆の森整備事業

「森林と人との共生」を目的とした国の助成事業として、ならコープは黒滝村の森林所有者と協定を結び、役職員、組合員が森林環境学習、林業体験、森林セラピーの場として有効利用し、グリーンツーリズムを体感・実践しています。



吉野川分水ツアー

2012年7月に吉野川分水について学ぶツアーを開催しました。
吉野川分水は河川流量の増加、地下水涵養（かんよう）、河川の水質改善、地域用水、洪水の軽減など私達の生活と密接に繋がっています。

植樹活動

組合員参加の植樹活動を通じて、里山保全などの環境保護活動を推進しています。



道普請

2011年の台風被害がまだ残る中、これらの道の修復作業(道普請)に汗をながしています。



吉野共生プロジェクトの活動

交流
会

活動内容

復興支援・組合員との交流



「人と人とのつながり」にも積極的にかかわり続け、豪雨災害の被災地である天川村、野迫川村、十津川村で組合員の交流会が進められています。

活動内容

各市町村との防災協定の締結

地域との災害時物資供給等に関する協定も締結し、物資や人的な支援体制も整えています。



移動店舗車「コープあったか便」

奈良県、とくに吉野地域は高齢化が進んでおり、外出が困難な方もいらっしゃいます。
各自治体と協定を結び、お買い物支援や夕食宅配サービスなどを通して高齢者の生活を見守っています。



ならコープエネルギー政策

ならコープのエネルギー政策における4つの基本課題

1. 既存の原子力発電所の老朽化や地震の頻発などによるリスクの増大、未解決な放射性廃棄物の処分の問題などを踏まえ、組合員とともに原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換に踏み出すことを国に求めています。
2. 電力の大規模集中型から地域の自然環境を活用した自律分散型発電システムへの転換をめざします。また、地場産業の振興に貢献し、持続可能な地域社会創りと「再生可能エネルギーの開発・利用推進のための地域協議会」の設立を展望します。
3. 事業活動において省エネルギーに関する設備投資を推進し、エネルギー使用量の削減とともに、電力のピークカットを重点に電力使用量の削減に取り組みます。
4. 電力多消費型のくらし見直し活動を組合員に呼びかけ、省エネルギーに基づく新しいライフスタイルへの移行を通じて、家庭の温室効果ガス排出量の削減に取り組みます。

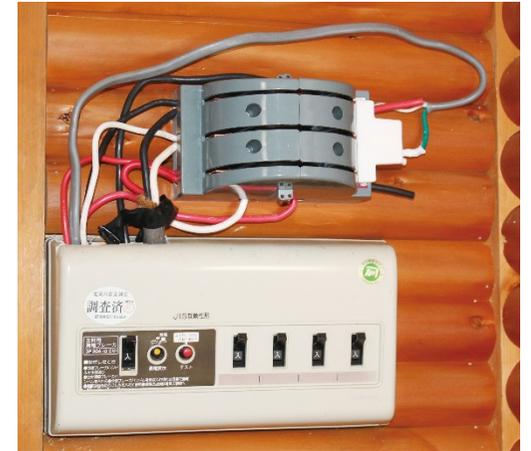
エネルギーへのとりくみ



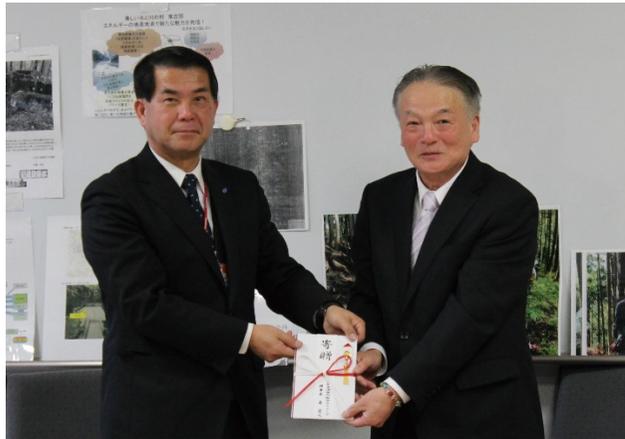
恋の窪未来発電所@ならコープ



殿川集会所の水車



LEDライト電源切替盤

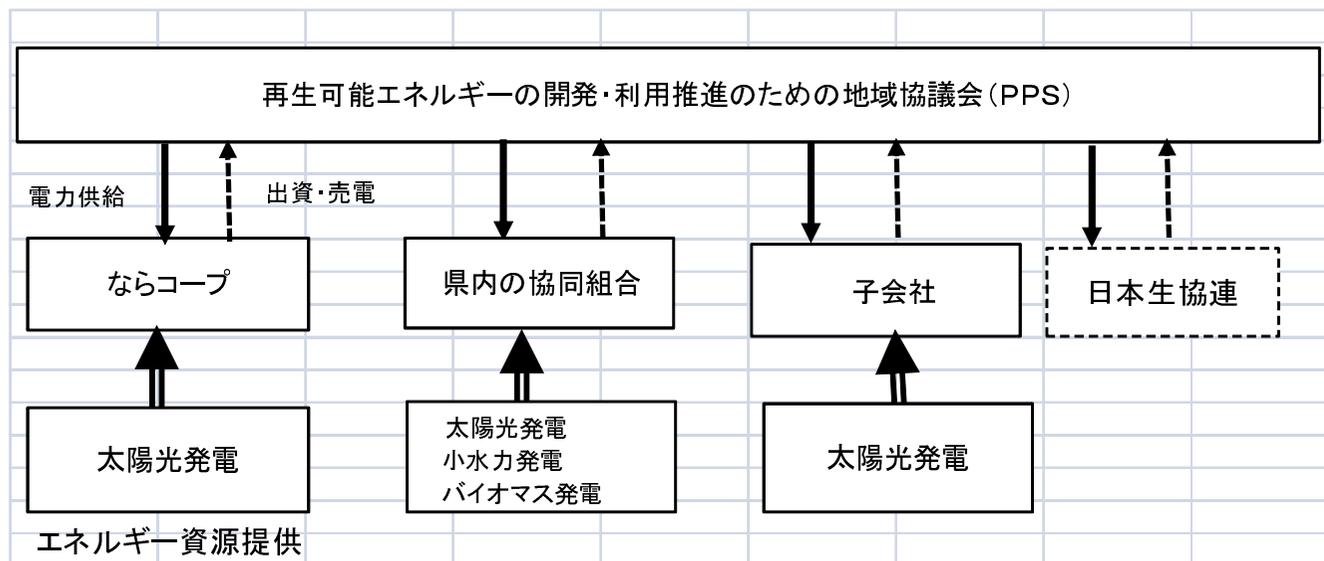


東吉野村小水力利用促進協議会への「つくばね発電所」復活調査支援



4つの基本課題に対する対応方針

- バイオマス発電についても奈良県の約7割を山林が占めていることや、山間地域における産業振興・雇用の確保を支援できるため、日本生協連や県内の協同組合、グループ子会社などと連携して導入に向けた調査と支援をおこなっていきます。
- 風力発電と地熱発電については、前者は一定の風力が確保できるとみられる適地は、南部山間の自然公園や世界遺産の指定地域に多く存在すること、地熱発電は摂氏120度を超える地熱を有する地点はなく、70度を超える地点も3カ所と少ないため現時点では検討対象から除きます。
- これらの検討を踏まえ、当面は太陽光発電と小水力発電、バイオマス発電を中心にした発電所設置の取り組み、日本生協連の「需要家PPS」への参画と「再生可能エネルギーの開発・利用推進のための地域協議会」の設立を展望していきます。

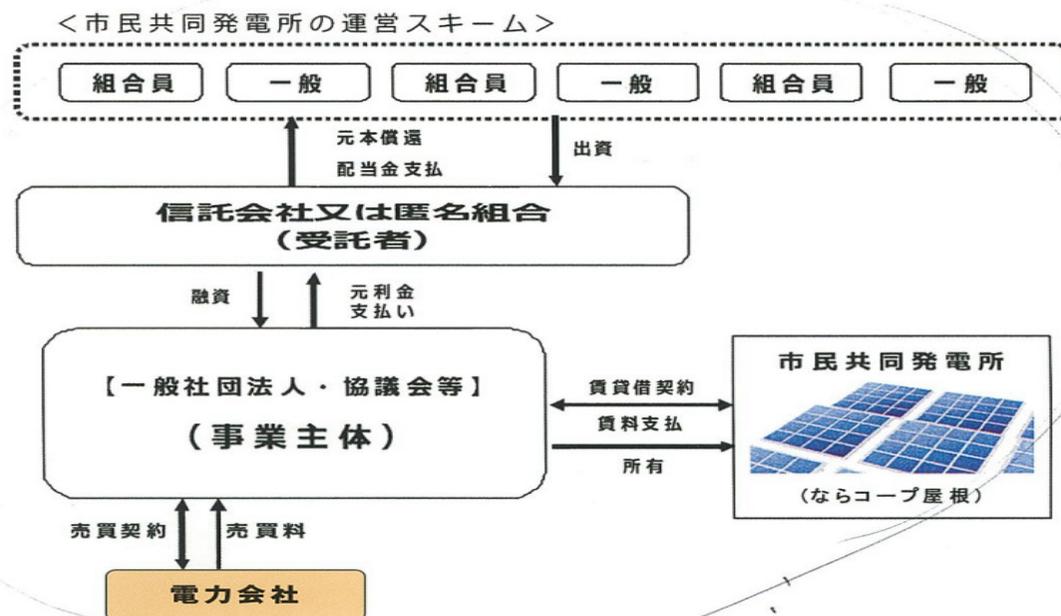


4つの基本課題に対する対応方針

●家庭では、太陽光発電と燃料電池の普及が予測される一方、現時点において家庭で太陽光発電をおこなう場合は概ね100万円程度必要になっており、誰もが設置できる機器にはなり得ていません。このため自宅に設置できない人でも少額で原発に頼らない再生可能エネルギーによる発電に参画できる市民共同発電所への参画を呼び掛けていきます。

●エネルギーに関して考える力、判断する力、行動する力を養うために、地球規模での環境学習、エネルギーに関する学習から、くらしの中でのエネルギーに関する具体的な知恵にいたるまでの幅広い学習が大切です。地域行政や環境問題に取り組む諸団体とも連携しながら、こうした学習をすすめ、エネルギーに関する政策や具体的計画づくりに参画し、市民としての取り組みについて、ならこーぷ組合員の活動を通じて推進します。また、幅広い世代に対してバイオマス燃料や再生可能エネルギー分野の学習の場づくりをおこなうとともに、その実践にあたっては、活動と事業を連携させた取り組みについて検討します。

●省エネ・節電スタイルの推進は、より電力使用量の少ないライフスタイルへの転換をはかり、LED照明などの省エネルギー機器の普及運動や知って知らせる活動を広げていきます。



4つの基本課題に対する対応方針

木質バイオマス発電所関連施設見学①

奈良県森林組合連合会 木材加工センター
貯木場（吉野町香東）



木質バイオマス発電所関連施設見学②

木材チップ工場（株）I・T・O



木材から木材チップになる工程を見学
現在は製紙工場用の木材チップを作っている

小水力利用 三茶屋エコ・え〜ね館見学 新エネルギー（小水力発電）を活用した地域振興へのチャレンジ！



吉野見附三茶屋の役割

- 防災の拠点
- 地域の交流の拠点



吉野町殿川地区見学

ピコ水力発電による防災拠点計画への支援



奈良工業高等専門学校生協の先生と
見学訪問
(奈良県生協連)